國學院大學学術情報リポジトリ

教育玩具としてのかるたの歴史的展開

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-22 キーワード (Ja): 教育玩具, 郷土教育運動, 郷土かるた, 愛国いろはかるた, 上毛かるた キーワード (En): 作成者: 大塚, 彩奈 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001662

論　　文　　要　　旨

学籍番号	233313	氏　名	大塚　彩奈

論 文 題 目：

教育玩具としてのかるたの歴史的展開

（内容の要旨）

本論文では、明治以降の教育の中で使われた「かるた」の制作背景・過程・目的等から、教育玩具としてのかるたが如何に展開していったのかを明らかにし、人々にとって「かるた」とはどのような存在であったのかについて論じている。

第一章ではかるたの成立から隆盛期である江戸時代、そしてかるたが近代化する明治までの変遷を明らかにした。二つの系統から発展したかるたは、娯楽・教育という一見相反する性質を内包しており、その性質を反映し多種多様なかるたが作られるに至った。

第二章では昭和前期の郷土教育運動期に制作された郷土かるたを取り上げ、その制作背景や目的を明らかにした。郷土教育運動の実践者である峰地光重は、郷土教育の流行以前からかるたの教育性に目を付けており、郷土かるたをいち早く制作していた。家庭の玩具であったかるたが、学校教育の中で使われるようになったのもこの時期である。

第三章では、戦時下に制作された「愛国百人一首」「愛国いろはかるた」の制作過程を明らかにした。戦時下という物資不足の状況でも、少ない原材料で制作できるかるたには、愛国心の育成という国家主義的な目的だけではなく、子どもたちの健全な育成のために良い玩具を与えたいという願いが込められていた。

第四章では、戦後第一号の郷土かるたである「上毛かるた」を取り上げた。郷土かるたは郷土愛の醸成が主目的とみなされ、上毛かるたもその面ばかりが強調されがちだが、むしろその本質は、同胞援護の精神や、物資不足の中で子どもたちへ玩具を与えたいという制作動機にある。郷土愛の側面が押し出されていったのはその普及過程においてのことであった。

昭和前期の郷土かるたと戦後の上毛かるたは「郷土」の描かれ方に類似性がみられる。また、戦時下のかるたと上毛かるたは、ともに子どもたちへ良質な玩具を与えたいという思いが制作動機となっている。そして、いずれのかるたにも、「郷土から国家」を認識すること、郷土を国家の土台として捉える意識を教育しようとする意図がみえ、「愛国」への眼差しに戦前・戦後の共通性がみられた。

大人の関心が子どもの教育に向けられる中で、子どもたちの健全な育成のために、子どもの興味関心に寄り添った教材のあり方が模索されてきた。かるたは、教材としても玩具としても優れた面があり、教育玩具としての有用性が認められたがゆえに、戦前・戦後を通して制作され続けてきたといえる。

キーワード（5 語）

教育玩具　郷土教育運動　郷土かるた　愛国いろはかるた　上毛かるた